

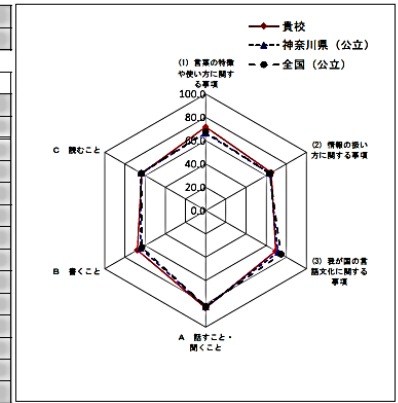
令和5年度 全国学力・学習状況調査分析

【国語】

集計結果

対象生徒数		横浜市立東山田中学校	神奈川県（公立）	全国（公立）		
		212	60,261	892,738		
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）			
			貴校	神奈川県（公立）	全国（公立）	
全体						
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	2	71.7	66.3	67.5
		(2) 情報の扱い方に關する事項	2	65.1	63.7	63.4
		(3) 我が国の言語文化に關する事項	3	69.5	71.7	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	83.6	82.5	82.2
		B 書くこと	2	67.7	64.6	63.2
		C 読むこと	4	63.4	64.2	63.7
評価の観点	知識・技能	7	68.9	67.9	69.4	
	思考・判断・表現	9	71.1	70.4	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	7	76.2	73.9	73.1	
	短答式	4	65.0	63.3	65.6	
	記述式	4	66.9	68.1	68.0	

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの区分について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

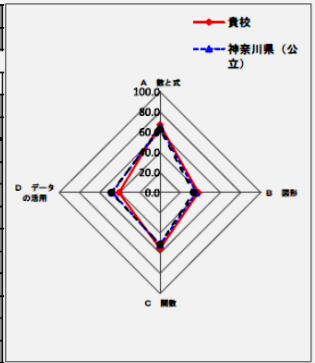
本校では、生徒の言葉に関する力に伴って、書く力も高められている。しかし、古典に関する力では、原文と現代文とを合わせて読む力が今後の課題といえる。知識の蓄積とともに、古典の力を高められるように、古典にふれる機会を増やしていく必要がある。

【数学】

集計結果

対象生徒数		横浜市立東山田中学校	神奈川県（公立）	全国（公立）	
		213	60,302	893,114	
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			貴校	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体					
学習指導要領の領域	A 数と式	5	67.3	65.2	63.0
	B 図形	3	38.2	36.1	33.2
	C 関数	4	55.4	51.7	51.2
	D データの活用	3	40.7	47.4	48.5
評価の観点	知識・技能	10	56.6	56.6	55.7
	思考・判断・表現	5	45.7	43.4	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	47.2	46.7	45.3
	短答式	6	62.9	63.3	62.6
	記述式	5	45.7	43.4	41.6

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



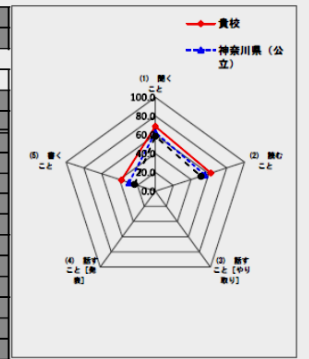
本校では以下の3点の特徴が見られた。①多くの領域や観点に置いて、全国平均を上回った。②調査に対して「無回答」も少ない結果となっていた。③データ活用の分野を苦手とする生徒が比較的多く、引き続き様々な分野と組み合わせながら定期的に学習を振り返る中で知識・技能の定着を図っていく必要がある。

【英語】

集計結果

対象生徒数		横浜市立東山田中学校	神奈川県（公立）	全国（公立）	
		213	60,318	893,528	
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）		
			貴校	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体					
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	68.9	62.5	58.4
	(2) 読むこと	6	62.3	55.7	51.2
	(3) 話すこと【やり取り】	0			
	(4) 話すこと【発表】	0			
	(5) 書くこと	5	37.9	29.5	23.4
評価の観点	知識・技能	9	64.7	56.6	51.5
	思考・判断・表現	8	49.4	43.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	65.6	59.1	54.8
	短答式	3	48.8	37.9	30.1
	記述式	2	21.6	16.9	13.5

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



本校では、市の平均正答率と同様もしくは平均以上の結果が見られるものの、「読むこと」の領域の問題では一部市の平均を若干下回るものも見られた。また「書くこと」の領域においても市平均を下回る結果となり、自分の考えなどを正確な表現を用いて表現することに課題が見られた。基礎的な文法項目を定着させるとともに、基礎表現に自分の考えなどを加味することを通して表現力を培っていく必要がある。